



STOP！ 冬季労働災害

～ 冬季における転倒災害防止対策を実施しましょう～

- 冬季における転倒災害の特徴 -

特徴 被災者の4割が60歳以上

冬季転倒災害の被災者の約4割が60歳代以上となっています。50歳代以上を加えると全体の約7割にもなります。高齢労働者は筋力や体力の衰えによって被災しやすいため、転倒災害防止対策でも特別な配慮が必要となります。

特徴 5割近くが出退勤時

出退勤時に会社の駐車場や駐車場までの通路等で転倒するケースが半数近くを占めています。暗さのため、路面の状態を確認しづらい夜間や早朝・夕方の時間帯に発生しています。また、体が覚醒していない朝の通勤時間帯にも発生しています。

特徴 5割以上が1か月以上の休業

冬季転倒災害のうち、1か月以上仕事を休まなければならないケースが半数以上を占めています。なかには、半年も仕事を休まなければならない怪我につながることもあります。また、高齢労働者は、休業日数が長期化する傾向があるため、特別な配慮が必要です。

滑りにくい「靴底」の冬靴を選び、凍結・積雪路面での転倒に備えましょう！

ピン・金具付きの底

先の尖った金属のピンや金具が靴底に取り付いており、かたい氷を強くひっかき突き刺します。



ただし、通路等の床面によっては、却って滑りの原因となる場合やマット等に引っ掛かるなど転倒の危険がありますのでご注意ください。

深い溝のある靴底

深い溝のある靴底は、路面に対するグリップ力が強く滑りにくくなっています。靴底が柔らかいものを選ぶとなお効果的です。



軟らかいゴム底

軟らかいゴム底を使った靴底は、路面に対する接着力が強いいため、滑りにくくなっています。



滑り止め材入りゴム底

滑り止め材が加工されている靴底は「やすり」のように路面の表面をひっかくため滑りにくくなっています。



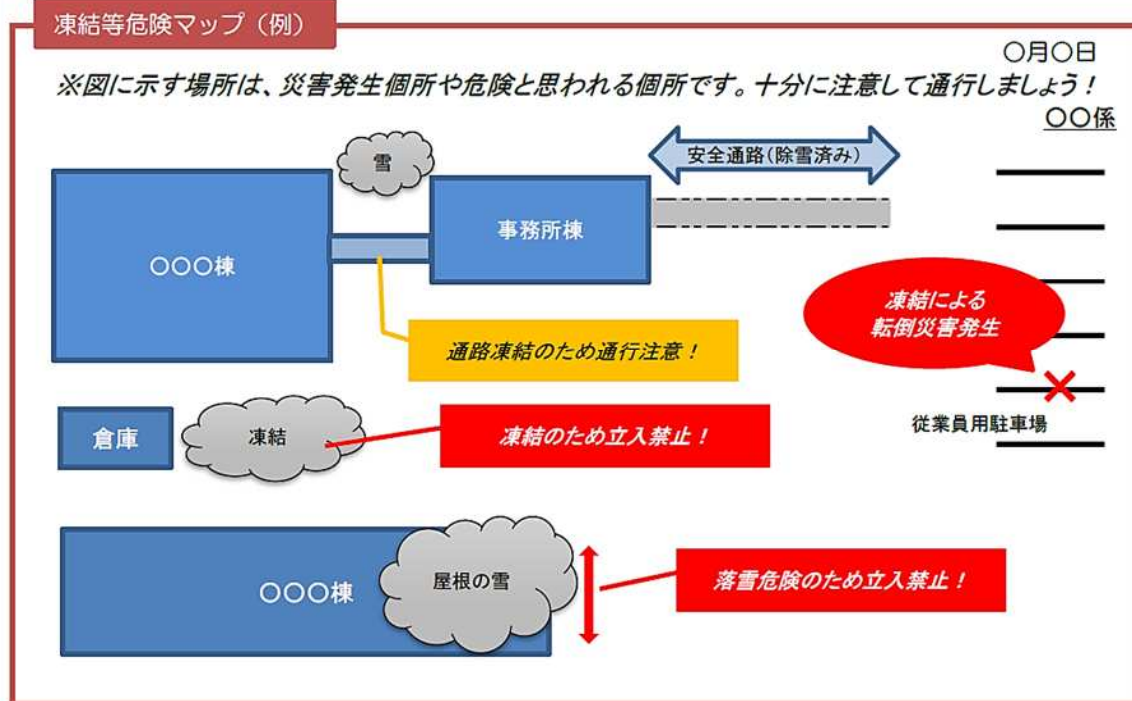
冬季転倒防止チェックリスト

あなたの職場は大丈夫？

凍結等による転倒リスクをチェックしましょう

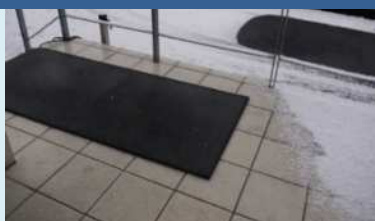
チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所を明確にし、注意喚起していますか	
2	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットを準備していますか	
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、転倒危険場所として「見える化」していますか	
4	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	
5	「ながら歩き」や走っての移動、ポケットに手を入れたまま歩くことなどを禁止していますか	
6	屋外通路や駐車場等における転倒防止のため、滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか	
7	降雪、凍結前に労働者に対し、転倒を予防するための教育・指導等を実施していますか	
8	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行うための体制を確保していますか	

事業所の敷地内等における凍結等危険箇所について周知を図りましょう！



危険箇所を明確にして注意喚起を図りましょう！
また、必要に応じて立入禁止等の措置を講じましょう！

事務所出入口のヒートマットの設置例



凍結等により滑りやすくなる箇所には事前の対策を！

